

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700083		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ岩見沢館		
所在地	岩見沢市6条西13丁目38-4		
自己評価作成日	令和3年9月3日	評価結果市町村受理日	令和3年10月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JingyosyoCd=0195700083-00&ServiceCd=320&Type=sasrch
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は新型コロナウイルス感染対策のために昨年から出来ませんが、職員と利用者の外出は自由で行きたい時に行けるよう管理者は職員に一定の裁量を任せています。利用者一人一人が自分の役割を持ちながら職員とともに楽しく生活が送れるよう支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設「いこいの里」の5つの介護事業所のひとつである「グループホームたんぽぽ岩見沢」は、開設から9年目を迎える2ユニットの事業所です。法人代表の意向により理念の見直しを行い、介護事業部全体で話し合い、新たにサービスの主軸となる「ミッション」と5項目の「ビジョン」を共通理念として掲げています。合同研修会や職員会議で職員への浸透と意識を高めることで、利用者主体の支援に繋がっています。

毎月の職員会議はシフト以外の全職員が参加し、同じ空間で情報共有を図ることで、職員間の更なる連携強化に取り組み、モニタリングやカンファレンスの充実に繋がっています。更に、抑制も虐待も無いケアを目指し、チェックシートを活用した自己点検を毎日行っています。

訪問診療や看護師職員を確保して日頃の健康管理を行い、さらに、看取り介護体制を構築し、本人、家族の希望に添えるようケアの幅、質の向上に努めています。

コロナ禍で外出の制限や地域、家族との交流が制限される中、暮らしの楽しみとなる食事に力を入れ、日常食、行事食、誕生会など様々な場面で、寿司やピザの出前、出張ラーメン、屋外で焼肉、炭火でサンマ焼きなど、季節感を大切に料理を提供し、利用者の食の楽しみや食欲を満たしています。

利用者の高齢化と重度化が進む中、職員の高い定着率が利用者との馴染みの関係を深めているのと共に、管理者を中心としたチームケアで安心と尊厳のある生活を実現できるよう取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が	令和3年度 株式会社ソーシャルリサーチ			
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度から新たに理念を考え、その周知のための研修会を設け、すべての職員に対し理解を深めるようして、今年度から運用始めている。理解を深めるために毎月の職員会議で話し合っている。	介護事業部共通の理念を作成し、事業所内の要所に掲示しています。合同研修や職員採用時に理念の重要性を学び、共有を図っています。さらに事業所では半年毎にビジョンに沿った目標を掲げて、職員会議で実践の確認を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスのため例年のように交流は出来ませんが、町内会に入ったり、雑巾を頂いたりしている。	コロナ禍の影響により町内会行事も去年から中止となり、事業所主催の秋祭りも地域住民の参加を控えています。利用者作成の雑巾を小学校に寄贈したり、近所の方から庭の花を頂くなど交流を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談があればいつでも受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より新型コロナウイルス感染防止のため、市からの指導で職員のみでの開催になっている。議事録で報告している。	コロナ禍の現在は書面会議としています。2カ月毎に開催し、利用者の状況や活動内容、事故・ヒヤリハット、感染症対策等を議事録に纏めています。運営推進委員と家族に配布し、意見や提案を求めるなど、運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況を報告しています。わからないことがあればその都度相談し協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は運営推進会議録、事故報告書等を直接役所に出向き提出するなど、担当部署に事業所の実情を伝え情報を共有しています。また、感染症予防対策及び介護に関する情報はメールや電話を活用し、相互に共有しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し代表委員が定期的に集まり各事業所での対応を話し合っている。すべての職員に研修を通して理解できるよう取り組んでいる。	身体拘束適正化に向けた指針の下、介護事業部合同の委員会や研修会を定期的実施しています。更に毎月の職員会議内で身体拘束の弊害や虐待防止について学び、共通認識の醸成に努めています。状態変化時のリスクについて家族と話し合い、センサー使用時は同意を得て、介護計画にも反映し慎重に対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修を行っている。又職員会議の中でも職員同士が注意をすることで防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会を持っていないため、知識のない職員もいると思います。今後学ぶ機会も必要と思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面談し家族や本人から不安や疑問を訪ね充分な説明をさせていただき、納得されて入居契約をしています。入居後も家族からの問い合わせには迅速に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染防止のため昨年から家族が来訪できる機会は少なくなりましたが、その都度家族に連絡し意見、要望を聞いています。連絡ノートで職員に周知し又職員会議で話し合っています。	家族の要望を受け、市中の感染状況を見極めながら、オンライン面会や窓越しの面会など、柔軟な対応に努めています。運営推進会議録、生活報告書、事業所通信で事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりを写真を掲載し詳細に伝え、管理者は都度、家族に電話で要望を確認しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常的に意見や提案を聞いている年度替わりには管理者と職員が面談をして意見を聞き運営に反映させている。	日常の支援の場や毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聴取し、利用者への支援方法や職員の就労環境の改善に反映しています。職員は事業所の各委員を担い、運営に参加しています。管理者は個人面談の機会を設け、職員が意見を表出できるよう努めています。また、法人代表も頻繁に来所し、管理者と連携を図り、職員の働く意欲向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績を評価し向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修をしている。又今年度から事業所間での研修交流を始めたので学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新型コロナウイルス感染防止のために昨年から交流は中断している。毎月の入居状況の報告はしながら、連絡を取っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネが入居前に本人に対してアセスメントを行い、安心して入居していただき信頼関係を築けるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と管理者、ケアマネと話し合いを行い、家族の要望を聞き取り、施設での対応について説明し信頼関係を築けるようよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基づき暫定ケアプランを作成し家族と相談しながら必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する者として尊敬の念を持ち一緒に時間を共に過ごす関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い状況の変化があったときは家族の希望を聞いて共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため、知人友人の面会は出来ませんが、連絡があった際には近況報告しています。又手紙や電話の対応はその都度している。	現在家族との面会は、顔を合わせ、声が聞ける窓越しで行う機会が多く、利用者の状態を確認し安心に繋げています。友人から電話を受ける利用者もいます。馴染みの美容室への訪問も10月から開始し、美容師との久しぶりの再会を果たしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソーシャルディスタンスを守りながら一人一人に必要な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて近況報告に来ていましたが、現在は感染防止のため来ていません。その都度相談があれば対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意見を把握できるよう話に耳を傾けて理解に努めている。困難な場合は本人の視点に立って話し合いをし検討している。	入居時に家族より過去の生活歴、生活習慣等の情報を収集しています。利用者の表情や簡単な言葉遣いからも気持ちを汲み取るなど、感情の表現にも気を配り、利用者本位に検討出来るように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りのほかその後の家族や利用者さんとの会話の中で知ったことをアセスメントに記入し情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの支援や健康、心身の状態を記録し情報共有しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の様子は担当職員がモニタリングし職員会議で状況の変化、対応などについて話し合い介護計画を作成している。	担当職員が中心となり毎月モニタリングを行っています。職員会議で情報の共有と意見交換を行い、評価や課題の分析を経て支援目標を定めています。介護計画作成時には、日々の関わりから得た利用者の思いや家族の意向を踏まえ、3ヵ月毎に見直しています。緊急時は随時検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の様子を支援経過記録、アセスメントシート、医療ノートに記録し情報を共有している。職員会議で話し合って見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じて適切な対応が出来るよう職員同士意見を出し合い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年からの新型コロナウイルス感染防止のため外食、外出はしていません。施設の近所に散歩に出て気分転換しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院に職員対応して受診している。重度化し通院が困難になる前に家族と相談し往診して頂いたり、適切な医療が受けられる要対応している。	利用者、家族の馴染みのかかりつけ医を優先し受診を支援しています。専門医を含めた通院は管理者が同行しています。看護師職員の週2回の訪問で、利用者の健康管理に努めています。通院困難な場合は、協力医療機関の往診対応への移行を検討しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の様子に関して看護記録、医療ノートに記入し対応をしている。受診の判断なども相談し適切な受診が受けれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と同居し説明を受けている。早期に退院できるよう病院との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設の方針を説明し、同意を得ている。管理者は家族に終末期や重度化に対する希望や考えを聞き施設で出来ることを説明し支援に取り組んでいる。	指針には、重度化や終末期の看取り介護のあり方について、目的や支援内容、医療連携等を具体的に記載しています。指針に基づき、契約時や状態変化に応じて家族に説明し、話し合いの場を設けています。重篤な状況には改めて主治医を交えて方針を共有するなど、安心して望む終末期を過ごせるよう、関係者間で連携し看取りケアに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し研修を行っている。すべての職員が応急手当の訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は隣接する施設と合同で年に2期行っている。昨年から新型コロナウイルス感染防止のため消防署の参加は出来ない。災害に備えて備蓄品を備えたり、近隣の施設と災害の協力体制に関する協定書を取り交わし連携体制を築いている。	隣接の同法人施設と合同で年2回、火災避難訓練を行っています。今年度は、コロナ禍で消防署の立合いが無く自主訓練となりました。昨年度目標に掲げた地震、水害等の自然災害を想定した訓練の実施には至っていません。緊急時マニュアルの整備、発電機を始め非常用備蓄品の確保に努めています。市内の4グループホームとの災害時協力、連携の協定を締結しています。	様々な自然災害を想定した避難訓練の実施を期待します。更に、現存の非常時災害避難計画に加えて、3年後に義務付けられる、感染症や自然災害発生時における業務継続計画（BCP）の作成と、その取り組みに期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し声掛けや対応をしている。全員でビジョンに対する目標計画を立て、声掛けなどの対応で日々注意しながら自己チェックシートに記録し取り組んでいる。	職員はケアサービスの基本を理解し、人格の尊重を掲げた理念に沿って、排泄支援では目立たずさり気ない声掛けや誘導を心がけています。特に身体拘束に関わる対応については、職員会議や研修で学び、日々自己点検を行い、確認と改善に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべて職員が決めずに本人の希望を取り入れるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の都合を優先させてしまう事も多いが希望に沿って支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶときはなるべく本人の意見を聞いている。髭、爪切り、散髪等はきれいに保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年から新型コロナウイルス感染対策のため食事の際は横並びでお喋りをしないで食べている。食べることを楽しんでいただく為に季節の果物を取り入れたりしている。	献立は利用者と一緒に作成しています。畑の野菜や旬の食材を吟味し、手作り料理に拘っています。外食できない現状で、寿司やピザの出前や出張ラーメン、サンマの炭火焼、屋外での焼肉など、季節行事や誕生会の要望に応えながら、美味しさと楽しさを演出しています。利用者の食べる力に合わせて、きざみやミキサーなど食事形態に配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分排泄や食事のチェックシートで一人ひとりの状態を把握し、利用者の好みや、食事に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし習慣となるように支援している。介助が必要な利用者は職員が介助し口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを用い利用者の排泄間隔を記録しトイレの声掛けや、誘導を行いトイレで排泄が続けられるよう支援している。重度化している利用者は利用者に合わせた支援をしている。	個別に排泄リズムを把握し、座位が保てる場合は誘導や介助でトイレでの排泄を支援しています。不必要な同室介助を避けドア越しで見守るなど、羞恥心に配慮しています。重度化の場合はベット上でのオムツ交換を行っています。下着や衛生用品の選択は、日中・夜間、身体状況に合わせて変更しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分排泄チェックシートを用いて水分量や食事に注意し便秘予防に取り組んでいます。便秘が続く時は主治医に相談し下剤を処方してもらい調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者の重度化の中で以前のように一人ひとりのタイミングを合わせて入浴していただくことが難しくなり現在は曜日を決め入浴しています。入浴の際にはゆっくりとくつろいでいただけるよう支援しています。	入浴は週2回を目安に午後から支援しており、利用者によっては入浴日が分かるように、居室のカレンダーに記しています。身体状況を考慮してシャワー浴や清拭なども行い、清潔保持に努めています。同性介助や二人介助にも対応し、身体チェックや会話から得た情報はケアに活かしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状況に応じ、ソファーでくつろいだり、居室でゆっくり休息していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに処方される薬のファイルでいつでも確認できるようにしている。一人ひとりの服薬が確実に飲めたか確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し支援しています。洗濯物を畳んだり、掃除をしたり、雑巾縫いをしたり気分転換にお散歩したりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策のため、昨年から外食、外出、家族との交流も中止しています。また地域の行事もすべて中止となっています。	感染症予防対策を講じ、外出制限中でも利用者が季節を感じられるよう、近隣の桜見物や、秋のドライブで紅葉狩りやリンゴ狩りに出掛けしています。日常では散歩や玄関先での日光浴、夏の夜は花火を楽しむなど、外気に触れる機会を作り、五感への刺激や気分転換に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、紛失や管理ができないため今所持してる方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した際にはいつでも電話できるよう支援しています。又手紙のやり取りもできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地よく過ごせるように配慮し乱雑にならないように掃除をし清潔を保持している。季節の飾りつけをして季節感を感じていただくようにしています。気温、湿度にも注意し気持ちよく過ごせるようにしています。	リビングは窓からの日差しも明るく、その時期の季節の飾りや、行事の写真、手作り品も掲示して心とむす雰囲気です。共用の空間は換気と消毒を定期的に行い清潔を保ち、密を防ぐためにテーブルにはパーテーションを設置し、配置や座席も工夫するなど、感染症予防対策の徹底に努め、利用者の安全、安心な環境作りに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座った際に気の合う利用者同士で座ったり、不穏になっているときは少し離れて座ってもらったりその時々で工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には居室で使うものは自宅ですっているものを持ってきていただくようお願いしている。使い慣れたもの、見慣れたものの置き場所は居心地よく過ごせるよう工夫している。	六畳の居室にはクローゼットを設置し、自分の部屋と認識出来るよう表札も工夫しています。入居時に馴染みの家具や調度品、仏壇も持ち込まれ、家族写真を飾りその人らしい居室を作り上げています。利用者の状態によって家具の配置を変更するなど、動線に配慮し安全で居心地の良い環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置してある。転倒等に気を付けて物を配置し、目印でわかりやすく案内表示をして自立した生活を送れるよう工夫しています。		